

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	9	B	159	C	6	D	1	II	
		一部計画を下回っており、このうち1項目については計画を大幅に下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	1	B	61	C	2	D	1	II	
		1項目については計画を大幅に下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	1	D	0	II	優れた入学者を確保するために状況把握・分析を行っており、25年度においては、良い学生を選抜するために第一段階選抜の倍率を8倍から9倍に変更したことは評価できる。目標充足率を達成出来なかった大学院看護学研究科については、引き続き取組推進を期待する。
		入試結果を分析し、医学部においては第一段階選抜の倍率を緩和することにより、受験者の受験機会を広げ、より良い学生を選抜するために、一般入試後期日程の第一段階選抜の倍率を8倍から9倍に変更した。また、看護学部においては、県内医療を担う人材確保のための選抜方法の検討を実施した。									
		A	1	B	35	C	1	D	0		
		学士課程においては、生命の尊厳や人間について深く理解する能力を育成するため、「歴史学」、「倫理学」、「生命倫理」などの教育を実施した。また、大学院課程においては、多分野にわたる最先端の研究法や知識を幅広く習得させるため、学外から講師を招いて、博士・修士両課程とも必修科目として「大学院セミナー」を開講するなど、おおむね計画どおり実施した。									
(2)	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	35	C	1	D	0	II	医学部において、臨床研修時から後期プログラムを開始できるなどの履修モデルを追加し、内容の充実を図った。また、医学部学生の育成として、医学部と会津医療センターが連携し、同センターでの臨床実習体制整備に着手しており、25年度においては、5年生全員(103名)と6年生の一部(14名)が臨床実習を行ったことは評価できる。
		学士課程においては、生命の尊厳や人間について深く理解する能力を育成するため、「歴史学」、「倫理学」、「生命倫理」などの教育を実施した。また、大学院課程においては、多分野にわたる最先端の研究法や知識を幅広く習得させるため、学外から講師を招いて、博士・修士両課程とも必修科目として「大学院セミナー」を開講するなど、おおむね計画どおり実施した。									
(3)	教育の実施体制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	8	C	0	D	1	II	定員増や教育内容の変化に応じた教育体制の整備として臨床教育改革WGを立ち上げカリキュラムの見直しを行い、また、アドバンストOSCE実行委員会を立ち上げ、実施に向けた検討を行っていることは評価できる。
		5, 6年のBSLにおいて、臨床教授制度を活用し、学外の教育協力病院で実習を行った。また、ティーチングアシスタント制度を活用し、実験・実習に関する教育補助業務に積極的に活用した。									
(4)	学生への支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	0	D	0	II	ファカルティーアドバイザー制度の改善を行った結果、個人面談実施率が87.3%と前年比で16.8ポイント向上したことは評価できる。
		医学部では、担任制及びファカルティーアドバイザー制度を実施し、看護学部では学生生活アドバイザーを配置するなど、学生が相談や質問をしやすい環境を提供している。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
2	研究に関する目標を達成するための措置	A	2	B	16	C	1	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	9	C	1	D	0	II	研究プロジェクト創出のための学習・検討を「次世代医学セミナー」シリーズを中心として行い、また「研究連携セミナー」によって優れた学内研究プロジェクトの創出に繋げるよう検討を進めたことは評価できる。
		研究プロジェクト創出のための学習・検討を「次世代医学セミナー」シリーズを中心として行い、また「研究連携セミナー」によって優れた学内研究プロジェクトの創出に繋げるよう検討を進めた。									
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	7	C	0	D	0	II	英文校正支援サービス体制の充実やメディカルイングリッシュクラスの講義内容の変更等により、英語論文作成を推進するための取組を行ったことは評価できる。
		学内研究者が直接相談できる英文校正支援サービス従事職員を継続して配備し、体制の充実を図った。また、本学研究者のプレゼンテーション能力の向上を図るため、メディカルイングリッシュにおいて、論文発表を主とした講義内容に変更し、受講者も増えた。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	2	B	15	C	0	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	0	D	0	II	県民向けの公開講座の開催や講演依頼の対応などに積極的に取り組んだことは評価できる。また、会津医療センターにおいては、一般向けの内覧会を開催したり、出前講座などの地域の健康増進を支援する活動を行っていることは評価できる。
		保健・医療に関する公開講座、講演会、シンポジウム等を9件開催した。また、県内各教育機関からの講師派遣依頼に対し、前年以上に対応するなど、おおむね計画どおり実施した。									
(2)	地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	A	1	B	6	C	0	D	0	II	地域の医師不足解消のために、へき地医療の拠点病院や地域の救急・災害・周産期・感染症等の分野を担う民間病院等への医師の派遣、特に震災等の影響を受けた相双・いわき地区への派遣を重点的に行ったことは評価できる。また、会津医療センターにおいては、へき地医療拠点センター病院として、県立南会津・宮下病院、国保診療所に対し、積極的に診療応援を行ったことは評価できる。
		地域の医師不足解消のため、教員をへき地医療の拠点病院や公的医療機関、地域医療や救急・災害・周産期・感染症等の分野に貢献していると認められる民間病院等へ派遣し、支援を行うなど、おおむね計画どおり実施した。									
(3)	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	A	1	B	0	C	0	D	0	I	分かりやすいシーズ集を作成するため、基礎系講座の教員に呼びかけ基礎系のシーズ集の作成に努めた。1月末から順次ホームページに掲載し3月までに18講座25シーズが完了した。

2 項目別評価 総括表

公立大学法人福島県立医科大学

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
4	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	国際交流の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	武漢大学との国際学術交流協定に続き、新たに3大学と協定を締結し相互に留学生を派遣するなど、国際交流の体制づくりに取り組んでいることは評価できる。
		中国武漢大学とは国際学術交流協定に基づき、武漢大学教員の受入（3名）、本学教員の派遣（2名）、本学学生の留学（4名）を行った。また、平成25年度中に新たにベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学、マウント・サイナイ医科大学との間でそれぞれ交流協定を締結し、本学学生を留学（各1名）させたほか、シンガポール国立大学への学生留学（1名）や海外大学からの短期留学の受入も行った。おおむね計画どおり実施した。									
5	大学附属病院に関する目標を達成するための措置	A	4	B	60	C	3	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	附属病院に関する目標を達成するための措置	A	2	B	44	C	1	D	0	II	研修医の視点に立った研修環境の改善のほか、ステップ・アップセミナーや「BLS（一次救命処置）講習会」、「ACLS（二次救命処置）講習会」など、臨床研修以外の研修も実施し、本県の臨床研修の質の向上に寄与したことは評価できる。また、慢性心不全認定看護師、乳がん看護認定看護師、皮膚排泄ケア認定看護師、精神看護専門看護師の計4名を養成したことは評価できる。一方で、平均在院日数は15日と前年度よりも1.4日短縮したものの、一般病床利用率は78.9%と前年度よりも4ポイント減となったことについては改善を図りたい。
		原価計算システムの精度向上を図り、そのデータや病院年報よりさらにドリルダウンした数値データを作成し、病院長・診療部長ヒアリングを実施した。今後の治療や患者受け入れ体制など話し合い、各診療部が病院経営に寄与することで了承された。									
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	A	2	B	16	C	2	D	0	II	関係機関の連携のもと、運営体制が県立病院から大学附属施設へと円滑に移行したことは評価できる。また、医学部学生の臨床実習の受入や初期研修医の確保など、若手医師の育成に取り組んでいることは評価できる。

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第2	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	1	B	16	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	A	1	B	4	C	0	D	0	II	県民健康調査を着実に実施するために、検診受診率向上の取組や、県民ニーズに合わせた広報・啓発活動を推進したことは評価できる。
		関係機関等との連携を図りながら県民健康調査を推進するなど、おおむね計画どおり実施した。									
2	復興支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	医学部5年生へのBSLや医療人を対象としたセミナーを実施し、災害・放射線に関する人材育成を行うとともに、避難住民への健康相談を実施し、実地研修を通じた被災地貢献を行ったことは評価できる。
		医療-産業トランスレーショナルリサーチセンターが入るA棟の実施設計を策定したほか、定期的にTR部会を開催した。									
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	放射線医学の推進のため、医学部に疫学講座、放射線物理化学講座、災害ころの医学講座を設置したことは評価できる。また、先端臨床研究センターの組織体制を整備するとともに事業運営計画を策定したことは評価できる。
		ふくしま国際医療科学センター実施設計について、業務を委託し、関係する各部署と調整を図り、設計図書の作成や模型作成等の業務について完了した。									
4	復興支援の連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	放射線医学について、放射線医学総合研究所や広島大学と連携し、研究推進を図ったことは評価できる。
		サイクロトロン整備に関して、放射線医学総合研究所と連携して事業の推進を図った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	3	B	50	C	0	D	2	II	
		一部計画を下回っており、そのうち2項目については大幅に計画を下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	14	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	12	C	0	D	0	II	日商簿記3級を取得するために法人職員向けの研修会を開催したり、専門看護師等の職務に関連する資格を取得した職員への助成をするなど、職員の資質や意欲を向上させるための具体的な取組を導入していることは評価できる。
		法人職員に会計の基礎である日商簿記3級を取得させるため6回の研修を実施。大学法人の運営をよくする知恵を出せるように職員の資質向上を図った。									
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	事務決裁規程を改正し、職員の負担軽減、業務効率化を図るため、決裁方法等の見直しを行ったことは評価できる。
		職員の負担軽減・業務の効率化及び迅速化を図るため、公立大学法人福島県立医科大学事務決裁規程を改正し、決裁方法等の見直しを行った。									

2 項目別評価 総括表

公立大学法人福島県立医科大学

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	平成25年度科学研究費助成事業の応募に向けた説明会の開催や、助手以上の教員に対する所属長の指導により、助手以上の教員が研究代表者となり申請した件数は、0.9件/人と昨年度より伸びたことは評価できる。
		平成26年度科学研究費助成事業の応募に向けて説明会を実施した。また、研究者による研究計画書の改善の指導、事務局職員による応募書類の事前確認を行った。									
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	夏季及び冬季の省エネ対策を徹底するとともに、施設整備にあたっては省エネ機器の採用に努めたことは評価できる。
		省エネルギー推進委員会を開催し、削減目標を決定すると共に、夏季及び冬季期間の省エネルギー対策の徹底について、学内に周知した。また、施設整備にあたっては、省エネルギー機器の採用に努めた。									
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	0	B	11	C	0	D	2	II	
		2項目について計画を大幅に下回っているが、おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	2	II	平成24年度に策定した「医学部教員(助教、助手)を任期の定めのない教員に移行する際の手続き」の運用により、平成25年度は11人が任期の定めのない教員に移行したことは評価できる。なお、教員評価データベースシステムの不具合により、平成24年度の教育活動状況について、教員による自己点検・評価が出来ない状況となった。
		県公立大学法人評価委員会による評価結果を大学ホームページで学内外に公表した。また、医学部教授会において「医学部教員(助教、助手)を任期の定めのない教員に移行する際の手続き」を策定し、運用を開始するなど、おおむね計画どおり実施した。									
(2)	情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	消費者庁・福島県主催の個人情報保護法に関する説明会に職員を派遣し、法律の目的や情報開示等の事務についての最新の知識を習得し、情報開示に携わる職員に周知を図り、情報公開の適正な事務処理に努めた。
		消費者庁・福島県主催の個人情報保護法に関する説明会に職員を派遣し、法律の目的や情報開示等の事務についての最新の知識を習得し、情報開示に携わる職員に周知を図り、情報公開の適正な事務処理に努めた。									

2 項目別評価 総括表

公立大学法人福島県立医科大学

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
4	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	A	3	B	19	C	0	D	0	II	
		おおむね計画どおり実施し、一定の成果を上げた。									
(1)	法令遵守に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	職員の法令遵守意識の浸透を図るため、管理職員による所属職員面談を行ったり、学内の研究者を対象にした法令の遵守に係る講習会を開催したことは評価できる。
		平成25年4月2日に、新規採用職員を対象にコンプライアンスマニュアル及びチェックシートを配布するとともに研修を行った。 平成26年3月には、各所属コンプライアンス委員会の活動内容を報告してもらった。									
(2)	施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	6	C	0	D	0	II	学生寮の再整備について、計画どおり事業を進め、また、大学の自己財源の負担軽減に資するため、寄付金の募集を行ったことは評価できる。
		ユニバーサルデザインに対応するため、病棟特別室内(11室)の段差解消工事やハイエネ棟等のトイレ改修工事を行った。また、既設給水・空調・自動制御・火災報知設備・エレベーターの更新を計画的に行った。									
(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	災害対策ガイドライン、災害対策マニュアル等の改訂版をデスクネットに掲載し、これらの概略をまとめた「大地震対応マニュアル」ポケット版を作成・配付して教職員、学生に周知を図るなど、おおむね計画どおり実施した。
		災害対策ガイドライン、災害対策マニュアル等の改訂版をデスクネットに掲載し、これらの概略をまとめた「大地震対応マニュアル」ポケット版を作成・配付して教職員、学生に周知を図るなど、おおむね計画どおり実施した。									
(4)	情報通信基盤の整備・活用に関する目標を達成するための措置	A	2	B	0	C	0	D	0	I	全学無線LANシステムを構築しサービス提供を開始したこと、会津医療センターにおいて学術情報ネットワークを整備したことは評価できる。
		平成25年5月に全学無線LANシステムを構築し、サービス提供を開始した。また、会津医療センターにおいて、学術情報ネットワークを整備し、医科大学と同等のネットワークサービスを開始した。									

合計	A	13	B	225	C	6	D	3	247
----	---	----	---	-----	---	---	---	---	-----

注1:自己評価の考え方

- A・・・年度計画を上回って実施している
- B・・・年度計画を予定どおりに実施している(達成度がおおむね90%以上)
- C・・・年度計画を下回って実施している(達成度がおおむね60%以上90%未満)
- D・・・年度計画を大幅に下回っている、または実施していない(達成度が60%未満)

注2:評価委員会の評価の考え方

- I・・・年度計画を十分に実施できている
- II・・・年度計画をおおむね実施できている
- III・・・年度計画を十分に実施できていない
- IV・・・年度計画を実施できていない